

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 12月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人社団 明和会		
事業所名	グループホーム ラ・メール大野		
所在地	〒739-0452 廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	令和5年10月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300659-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ラ・メール大野は医療法人の運営する事業所です。母体の大野浦病院と連携を密に取っており、健康面でも安心して生活を送って頂ける環境にあります。四季を感じられるように花壇の手入れや季節毎の行事を行い、入居者様の夢を叶える事を目標に外食やドライブ等のレクを行っています。食事はメニューから職員で考え、心のこもった温かい食事を提供しています。入居者目線から考え、個別ケアを提供できるように職員の教育にも力を入れています。院内資格であるマスター制度があり（食支援マスター、認知症ケアマスター、接遇マスター）入居者様をはじめ、関わる人の幸せに貢献できるように専門性を発揮しています。職員も物心両面で豊かな生活を送れるように働き方を選択できる仕組みがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念、基本方針をもとに年度事業所目標や職員個々に目標を策定し、取り組む姿勢を明確に掲げ日々の業務に尽力している。国際生活機能分類（ICF）の情報整理シートを活用したアセスメントにて、一人ひとりの生活背景や環境、個人因子に目を向け、利用者の人物像をしっかりと捉え、思いや個人のできることを活かせるよう支援している。法人医療機関が隣接し医師をはじめ、理学療法士や管理栄養士など各関係部署、業種と密に連携が行える体制を構築している。法人内に接遇マスター、食支援マスター、認知症ケアマスターの独自資格制度があり、資格を有する職員が主体となりそれぞれに特化した研修や指導を行うことで全体の資質やサービスの向上に繋げている。今年度、管理者発案によりユニット毎単独の職員配置シフトを両ユニットに携わるシフト体系に変更し、利用者全員への一体的なケアや対応が行えるようにしている。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を基に部署目標を立案し、各職員の目標管理面談にて部署目標、個人目標、目標に対する進捗状況を確認し評価に繋げている。	法人理念のもと、年度初めに職員全員に今年度やりたいことや意向についてアンケートを行い、それらを取りまとめ年度目標を策定し取り組む方向性を明確に定め実践に努めている。職員目標も個々の等級をもとに個人の能力に合わせて作成し、半期毎に面談し振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染に十分に注意して地域清掃活動への参加や区の組長、役員会へ出席している。	町内会に加入し清掃活動への参加や、回覧板や民生委員との交流など、地域情報を共有している。管理者は区の組長を努め、祭りなど地域行事や年間の取り組みの検討など中心に動き、日常的に近隣住民、地域との関係性を紡いでいる。今年度は久々に再会された地域の祭りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部研修参加や法人の院内資格である認知症ケアマスター（ホームでは4人が資格取得）が中心となり勉強会を立案している。認知症カフェに関しても感染状況を踏まえながら、取り組んでいくよう予定している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より運営推進会議は開催している。4月、6月は書面会議、8月より集合会議している。開催時にはホーム内のインシデントや行事の報告、より良いホームを目指す為の意見を頂きホーム運営に活かしている。	8月より対面にて会議を開催している。全家族に会議への参加を働きかけ参加可能日の調整を行い募ると共に、市高齢介護課や支所健康福祉系の職員参加をはじめ、地域包括支援センターや地域住民代表の参加にて活発に意見交換している。会議議事録は全家族に送付し周知に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	まだ運営推進会議の出席は見られていないが、(感染状況により)廿日市市大野支所高齢介護課の担当者に相談があれば相談し助言を頂いている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議には今年度より開催、参加している。	運営推進会議において意見交換を行っている。市の担当者には介護保険において運営上の解釈などの確認、相談や入所の問い合わせがあるなど必要により随時連携を図っている。市や地域包括支援センターが主催する研修の案内もあり関連する内容については積極的に参加している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に対する研修を実施しており、(令和5年11月研修予定)行動面ではマニュアルを作成し身体拘束への理解を深めケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束廃止委員会を毎月開催し安全対策、リスクマネジメント、身体拘束排除に向け基本方針を明確にし、報告をミーティングにて共有し全員で周知している。研修も年間で計画し、職員の気付きや課題に感じることは随時話し合いやカンファレンスを行いケアを統一している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を実施しており、(令和5年11月研修予定)職員1人ひとりが理解を深め適切に行動できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者様の中には成年後見制度を利用しておられる方があり、入居者様を取り巻く環境や制度に関して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に部屋を見学してもらい入居前には必ずホームの雰囲気やサービス内容をお伝えした上で契約を締結している。契約時には十分な説明を行い同意頂ければ署名、捺印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年8月と12月にご家族のみで要望等を話し合っておく家族会を開催していた。今年度はまだ未定だが、12月もしくは1月に開催する予定。また随時、意見や要望がある時には柔軟に対応している。	家族へは面会や連絡時に随時意見を確認している。面会希望への対応や、外出や外泊も今年度は行えるように意欲を持っている。以前は年2回家族会を開催しており再開の計画も進めている。利用者へは日々の生活の中で意向を聞き取り組んでいる。誕生日には食べたい物を提供している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者による定期面談(3ヶ月/1回)を実施している。その他に各ユニットリーダーが相談役となり意見や提案があれば検討、話し合う機会を設けている。またグループホームミーティングを毎月開催しており職員が提案できる場の提供もしている。	3カ月毎に管理者との面談を定期的に行い、意見や思いの表出の機会を設けている。日々の業務の中でも、管理者やユニットリーダーに相談ができ、職員満足度調査も実施している。有給休暇も柔軟に取得ができ、職員通路入口を鍵から施錠ロックに変更し利便性の向上が図られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度や働き方の選択が法人にあり、やりがいやライフスタイルに合わせた働き方が出来るような仕組みがある。また職員満足度調査も1回/1年実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で各職員のレベルに合わせたラダー研修制度がある。また目標管理面接を行い各職員への期待値を伝える事や目標に対しての振り返りを実施している。また、法人外の研修への参加案内が社内掲示板を通じて掲示され多数の参加実績がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は福祉施設職員相互研修に参加した。開催された認知症介護実践者研修等は今年度3名が受講し同業他社の職員との意見交換の良い場となっている。また近隣のグループホームの会を立ち上げ情報交換していく取り組みを予定したいと思っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に生活歴や趣味等の確認や直接会いに行き面接を行っている。入居後は特に不安も大きいと予想される為、しばらくは職員から不安を軽減できるようなキーワードを用いて声かけを実施している。また、話しをする中で得た情報を職員で共有して安心して過ごせるように気持ちや環境面で活かせるように務めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時の暫定計画書(2週間の期限)を作成する時点でご家族の希望や意向を確認している。また、何かあればこまめに電話連絡を行っており、毎月の請求書送付時に担当職員による一口メッセージと一緒に様子が分かり易いように写真を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時での聞き取りをはじめ、ケアカンファレンス前の希望確認や、その時に応じたサービスの提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常日頃から入居者様と職員は対等な関係である事を職員間で周知している。入居者様の生活で難しい箇所を一部支援する事と職員の成長やスキルアップの喜びを感じる事はもとより、お互いが認め合い共感して生活を営めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切にご家族を預かっている一方で、入居者様により良い生活を送って頂く為のヒントをご家族から頂いている。コロナの影響でまだ面会時間、年齢に制限がかかっているが、電話での対応や上長相談の上の特例面会など臨機応変に対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の制限がなくなり(時間制限、年齢制限はあり)誰でも気軽に面会できる体制をとっている。 写真やお便り、一口メッセージをキーパーソンに毎月渡している。	本人や家族、担当ケアマネジャーより生活背景や状況を確認しその方の人物像を把握し支援している。面会も制限なく実施し、利用者から家族に向けて手紙を書く支援など、馴染みの継続を実践している。今年度より職員発案にて10月23日を文の日とし手紙を書くことを行った。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様、それぞれの認知症のタイプを熟知しており、その時々での感情が本物である事を職員全員が理解して居間で過ごされる時の席や個人別の過ごし方等の配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後であってもご家族より相談事があれば可能な限り相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを法人の理念として掲げている。ICFを活用した取り組みを個々に合わせ、本人本位の生活を営めるようにライフスタイルを尊重している。	国際生活機能分類(ICF)を活用しチェックシートにて利用者の思いや意向を把握している。利用者担当がしっかり関わることで利用者の思いを深く汲み取り、職員で得た情報は全員で共有し、一人ひとりの思いを理解し本人らしく過ごせるよう日々の生活やケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りでこれまでの生活歴等や既往歴を把握できるように努めている。入居時は自宅で使い慣れた物品を持参して頂き安心して生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康状態やご本人の出来る事や得意な事を観察して記録に残す事を情報共有の材料としている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者がご本人やご家族の意向の聴取及び心身状態（受診歴や様子等）をモニタリングしアセスメントを作成する仕組みとなっている。計画作成担当者はその時々に合わせて計画書を作成している。</p>	<p>本人らしく、一日も長く安心して生活ができることを念頭に、利用者担当がアセスメントを行い、それをもとに計画作成者と共にケアプランを作成している。医療面においても医師や看護師、必要に応じて併設する事業所の理学療法士や言語聴覚士にも協力を得ながら検討を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>特に気に掛けるべき記録については職員連絡ノートを活用して記録の情報共有を行っている。個人記録を基にICFに繋がるアセスメントを作成する仕組みとなっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療法人の特性を十分に活かしたサービス提供を行っている。リハビリ部門や看護部門との連携はもとより系列会社の福祉用具事業所とも連携を行い多職種連携を図り柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の特性としてサロン活動やボランティア活動が盛んである。しかし、まだ参加とまでは至っていない。廿日市市の介護相談員も現在は休止している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医はご家族、ご本人の意向を十分に伺い決定している。併設の大野浦病院を希望された場合も既往歴に併せて担当医を決める仕組みがある。必要時や希望時はご家族にも受診に付き添って頂いている。</p>	<p>利用開始時に本人、家族にかかりつけ医の確認を行っている。隣に併設する病院があり安心感が持てることで殆どの利用者が協力医をかかりつけ医に変更している。毎月職員が同行し受診を行い、専門科にも適宜受診を行っている。事業所内の看護師と連携し健康や体調を管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師1名、非常勤看護師2名の体制で極力看護師が勤務する日は重ならないように毎月作成している。母体の大野浦病院や、さくらす大野の看護師とも急変時や転倒時等連携を取るワークフローがあり適切な対応を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には先方の地域連携室との連絡をとり、状態の確認や帰所に向けた支援で必要な事を確認している。入院時カンファレンス、定期カンファレンス、退院前カンファレンスにも必ず参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の希望を書面で確認しており、希望が変わった場合は申し出て頂くようにしている。終末期には出来る事も限られている旨を説明し、重症化した時の対応やDNARを確認し書面化している。	利用開始時に重度化した場合の説明、DNAR（心肺蘇生を行わない事）の緊急時や蘇生などの対応について確認を行い書面にて同意を得ている。看取りは実施していないが、併設病院での受け入れ態勢があることや、連携を図り適宜状態を確認しながら対応ができ、可能な限り事業所での支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に対応できるように事故発生時のマニュアルを作成し共有している。また、急変時や事故発生時には法人内の医療職がフォローする仕組みがあったり部署内研修(BLS研修)にも看護師が参加しフィードバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対応のマニュアルを作成しており、年に2回の防災訓練を併設病院と共同で実施している。法人で作成しており避難に関する方法、手順を共有している。また、ホーム管理者が地域の組長になっており災害時における地域との連携についても確認をしている。	災害別のマニュアルを整備し、年2回の防災訓練を併設の病院と共同で実施しており、その内1回は消防署指導のもとに行っている。管理者が地域の組長となっていることで災害時における地域との連携についても体制や協力関係が構築されている。備蓄も併設病院で一括に管理している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した取り組みとして、接遇改善に取り組んでいる。法人内資格である接遇マスターによる接遇対応に力を入れている。	個人の尊厳、人格を尊重することを常に意識し、自己決定ができる配慮やトイレの声掛けを小声にて行うなど基本的なケアにおいて尊厳やプライバシー保護に丁寧に取り組んでいる。法人内資格制度における接遇マスター資格を有する職員が主体となり研修や接遇の指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアの中で自己決定できる機会を意識したケアに取り組んでいる。例えば意思決定の難しい入居者様に対しても、着替えの時は複数の選択肢を提示して選んで頂くような工夫をしている。また院内研修(ACP研修)にも参加し学ぶ機会をもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や体操時間など、なるべく規則正しい生活を送れるように声掛け等を行い支援しているが、本人の気分等も考慮して入居者様の個々のペースに合わせて無理強いする事無いように過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を大切に、その日の気分で服を選んだり化粧ができるように支援している。また、散髪は行きつけの場所があればご家族の協力のもと好きな美容院を利用して頂き、希望者は外部業者による訪問散髪サービスを利用している。希望に応じてカラーやパーマもしてもらえる環境にある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	院内資格の食支援マスターが中心となり安全かつ個人の嗜好に合わせた食べる楽しみを支援している。また、野菜の下ごしらえやお盆拭き等は入居者様と一緒にできるように支援している。当院で育てた野菜を季節ごとの食事にも取り入れ利用者と一緒に調理したりもしている。	食材を一から手作りにて調理し、季節の食材や個々の好み、希望を取り入れ提供している。法人内資格制度における食支援マスター資格者を中心に、嗜好に合わせた献立や行事食、食事姿勢や口腔アセスメントなど食事に関する様々な視点でサポートを行い食の楽しみや充実に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養バランスを考えたメニュー作成を管 理栄養士の指導の下、現在作成中であ る。栄養補給に関しては、定期受診に食 事摂取量や体重等の報告を行い、特に気 になる方に関しては主治医とも相談し栄 養補助食品等を提供している。水分補給 については嗜好に合わせた物の提供をし て摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	院内資格である食支援マスターが中心と なり1人ひとりに口腔ケアアセスメント を実施しており定期的にケアの仕方の確 認をしている。また、口腔内のトラブル に関しては同法人の歯科衛生士と相談し 必要に応じて歯科医に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗を極力防げるように各入居者 様の排泄パターンを、ほのぼののシステ ムを活用し職員間で共有している。また、 各個人の排泄パターンからトイレ誘導や 声かけのタイミングを考えて援助してい る。	排泄状況をケアシステムに記録し管理、 確認を行うことで個々の排泄パターンを 把握している。それをもとにトイレ誘導 や声掛けのタイミングを考え個人の状態 や排泄感覚に応じてケアを実践し、失禁 回数の減少など効果も得られている。乳 製品の摂取や運動機会の確保など工夫し ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や乳製品の摂取をはじめ適度な 運動機会を確保できるように午前、午後 で体操する機械を設け、運動量の少ない 方には個別で運動機会を確保できるよ うに支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	無理強いすることなく、ご本人のタイ ミングで入浴に誘うようにしている。概ね 3日に1度の入浴機会を確保できるように 援助を行っており、希望があれば同性の 職員で対応するようにしている。	午前、午後一日通して入浴を行ってい る。長湯が好きな方や湯の温度、入る時 間やタイミングなど個々の馴染みのお風 呂への入り方や希望をふまえ、お風呂が 楽しみとなる生活が築けるように努めて いる。希望により同性介助も行うなど、 プライバシーや羞恥心にも配慮を意識し 行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日課や体調に合わせて休息時間を確保できるように柔軟に支援している。夜間等に不安を訴える方がいる時は話しの傾聴を行う等の安心できるような支援を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬確認を正確に実施できるように1日分の服薬BOXとチェック表を作成して活用している。また、薬の調整をされている方には、確認すべきポイントについて主治医に確認を行い、様子観察した記録を元に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事援助や趣味活動で、入居者様が得意な事を見つけ日課に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度は毎月の外出や買い物を実施している。また外食も企画中である。日常的にはホーム外での花壇手入れや散歩等を実施している。	コロナ禍にて感染症対策を講じた制限ある状況下であるが、密を避け花見や紅葉を見に行くことや日常的に近隣の公園に散歩を行っている。今年度より毎月の外出や買い物を企画し実践している。今後は外出機会が増えるよう検討しており、来年の地域のとんどにも参加を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはご家族の了承のもと、入居者様の責任で現金を所持して頂いている。必要に応じて社会福祉協議会とも連携を行いながら支援できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの手紙は本人に確認をして一緒に読んだり希望に沿って返信を返したり、大切に保管できるように支援している。また、昨年より11月23日(文の日)に家族あてに手紙を書いてもらい大変喜ばれている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の居間部分は季節を感じて頂けるように季節の飾り付けを行っている。玄関前のプランターは季節毎に花の植え替えを行っている。ご自分の好きな場所できつるげるように支援している。また食事席や事務所前にも季節に合わせて切り花等を飾り季節感を味わってもらっている。	リビングや廊下には季節折々の作品や飾りつけを行い、季節感が感じられるアットホームな空間にて過ごせる環境となっている。常時テーブルには生花が飾られており、キッチンが面していることで調理の音や匂いなど生活感が感じられ、五感を刺激する家庭的な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関部分は朝日が差し込むので、入居者が気の合う方と気持ち良く過ごせるようにソファを配置している。決して無理強いする事のないように思い思いの場所で過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご家族と相談を行い、居室内は好きなように使用して頂き安心できる環境を作る為、写真や使い慣れた物品を持参して頂いている。	家族から自宅での環境や状況を確認し、それをもとに居室内のレイアウトを決定している。自宅から使い慣れたものや馴染みのものを自由に持参が可能であり、慣れ親しんだ筆筒や机の持参や、楽器や写真を飾るなど個々に落ち着ける居心地よく過ごせる環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの表示や居室の表札等、視覚で分かり易いように工夫している。また安全に生活を送れるように廊下にも休憩できる椅子を配置している。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を基に部署目標を立案し、各職員の目標管理面談にて部署目標、個人目標、目標に対しての進捗状況を確認し評価に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの感染に十分に注意して地域清掃活動への参加や区の組長、役員会へ出席している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部研修参加や法人の院内資格である認知症ケアマスター（ホームでは4人が資格取得）が中心となり勉強会を立案している。認知症カフェに関しても感染状況を踏まえながら、取り組んでいく予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より運営推進会議は開催している。4月、6月は書面会議、8月より集合会議している。開催時にはホーム内のインシデントや行事の報告、より良いホームを目指す為の意見を頂きホーム運営に活かしている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	まだ運営推進会議の出席は見られていないが、(感染状況により)廿日市市大野支所高齢介護課の担当者に相談があれば相談し助言を頂いている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議には今年度より開催、参加している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に対する研修を実施しており、(令和5年11月研修予定)行動面ではマニュアルを作成し身体拘束への理解を深めケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を実施しており、(令和5年11月研修予定)職員1人1人が理解を深め適切に行動できるように取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者様の中には成年後見制度を利用しておられる方があり、入居者様を取り巻く環境や制度に関して理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に部屋を見学してもらい入居前には必ずホームの雰囲気やサービス内容をお伝えした上で契約を締結している。契約時には十分な説明を行い同意頂ければ署名、捺印をお願いしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年8月と12月に家族のみで要望等話し合って頂く家族会を開催していた。今年度はまだ未定だが、12月もしくは1月に開催する予定。また随時、意見や要望がある時には柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者による定期面談(3ヶ月/1回)実施している。その他に各ユニットリーダーが相談役となり意見や提案があれば検討、話し合う機会を設けている またグループホームミーティングを毎月開催しており職員が提案できる場の提供もしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度や働き方の選択が法人にあり、やりがいやライフスタイルに合わせた働き方が出来るような仕組みがある。また職員満足度調査も1回/1年実施している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で各職員のレベルに合わせたラダー研修制度がある。また目標管理面接を行い各職員への期待値を伝える事や目標に対しての振り返りを実施している。また、法人外の研修への参加案内が社内掲示板を通じて掲示され多数の参加実績がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は福祉施設職員相互研修に参加した。開催された認知症介護実践者研修等は今年度3名が受講し同業他社の職員との意見交換の良い場となっている。また近隣のグループホームの会を立ち上げ情報交換していく取り組みを予定したいと思っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に生活歴や趣味等の確認や直接会いに行き面接を行っている。入居後は特に不安も大きいと予想される為、しばらくは職員から不安を軽減できるようなキーワードを用いて声かけを実施している。また、話しをする中で得た情報を職員で共有して安心して過ごせるように気持ちや環境面で活かせるように務めている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時の暫定計画書(2週間の期限)を作成する時点で家族の希望や意向を確認している。また、何かあればこまめに電話連絡を行っており、毎月の請求書送付時に担当職員による一口メッセージと一緒に様子が分かり易いように写真を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時での聞き取りをはじめ、ケアカンファレンス前の希望確認や、その時に応じたサービスの提案等を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常日頃から入居様と職員は対等な関係である事を職員間で周知している。入居者様の生活で難しい箇所を一部支援する事と職員の成長やスキルアップの喜びを感じる事はもとより、お互いが認め合い共感して生活を営めるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切なお家族を預かっている一方で、入居様により良い生活を送って頂く為のヒントをご家族から頂いている。コロナの影響でまだ面会時間、年齢に制限がかかっているが、電話での対応や上長相談の上の特例面会など臨機応変に対応している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の制限がなくなり(時間制限、年齢制限はあり)誰でも気軽に面会できる体制をとっている。 写真やお便り、一口メッセージをキーパーソンに毎月渡している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様、それぞれの認知症のタイプを熟知しており、その時々での感情が本物である事を職員全員が理解して居間で過ごされる時の席や個人別の過ごし方等の配慮を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後であってもご家族より相談事があれば可能な限り相談に応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを法人の理念として掲げている。ICFを活用した取り組みを個々に合わせ、本人本位の生活を営めるようにライフスタイルを尊重している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りでこれまでの生活歴等や既往歴を把握できるように努めている。入居時は自宅で使い慣れた物品を持参して頂き安心して生活を送れるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康状態やご本人の出来る事や得意な事を観察して記録に残す事を情報共有の材料としている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者がご本人やご家族の意向の聴取及び心身状態（受診歴や様子等）をモニタリングしアセスメントを作成する仕組みとなっている。計画作成担当者はその時々に合わせて計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特に気に掛けるべき記録については職員連絡ノートを活用して記録の情報共有を行っている。個人記録を基にICFに繋がるアセスメントを作成する仕組みとなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療法人の特性を十分に活かしたサービス提供を行っている。リハビリ部門や看護部門との連携はもとより系列会社の福祉用具事業所とも連携を行い多職種連携を図り柔軟な支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の特性としてサロン活動やボランティア活動が盛んである。しかし、まだ参加とまでは至っていない。廿日市市の介護相談員も現在は休止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医はご家族、ご本人の意向を十分に伺い決定している。併設の大野浦病院を希望された場合も既往歴に併せて担当医を決める仕組みがある。必要時や希望時はご家族にも受診に付き添って頂いている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師1名、非常勤看護師2名の体制で極力看護師が勤務する日は重ならないように毎月作成している。母体の大野浦病院や、さくらす大野の看護師とも急変時や転倒時等連携を取るワークフローがあり適切な対応を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には先方の地域連携室との連絡をとり、状態の確認や帰所に向けた支援で必要な事を確認している。入院時カンファレンス、定期カンファレンス、退院前カンファレンスにも必ず参加している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の希望を書面で確認しており、希望が変わった場合は申し出て頂くようにしている。終末期には出来る事も限られている旨を説明し、重症化した時の対応やDNARを確認し書面化している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に対応できるように事故発生時のマニュアルを作成し共有している。また、急変時や事故発生時には法人内の医療職がフォローする仕組みがあったり部署内研修(BLS研修)にも看護師が参加しフィードバックしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対応のマニュアルを作成しており、年に2回の防災訓練を併設病院と共同で実施している。法人で作成しており避難に関する方法、手順を共有している。また、ホーム管理者が地域の組長になっており災害時における地域との連携についても確認をしている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した取り組みとして、接遇改善に取り組んでいる。法人内資格である接遇マスターによる接遇対応に力を入れている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアの中で自己決定できる機会を意識したケアに取り組んでいる。例えば意思決定の難しい入居者様に対しても、着替えの時は複数の選択肢を提示して選んで頂くような工夫をしている。また院内研修(ACP研修)にも参加し学ぶ機会をもっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や体操時間など、なるべく規則正しい生活を送れるように声掛け等を行い支援しているが、本人の気分等も考慮して入居者様の個々のペースに合わせて無理強いする事の無いように過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を大切に、その日の気分で服を選んだり化粧できるように支援している。また、散髪は行きつけの場所があればご家族の協力のもと好きな美容院を利用して頂き、希望者は外部業者による訪問散髪サービスを利用している。希望に応じてカラーやパーマもしてもらえる環境にある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	院内資格の食支援マスターが中心となり安全かつ個人の嗜好に合わせた食べる楽しさを支援している。また、野菜の下ごしらえやお盆拭き等は入居者様と一緒にできるように支援している。当院で育てた野菜を季節ごとの食事にも取り入れ利用者と一緒に調理したりもしている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考えたメニュー作成を管理栄養士の指導の下、現在作成中である。栄養補給に関しては、定期受診に食事摂取量や体重等の報告を行い、特に気になる方に関しては主治医とも相談し栄養補助食品等を提供している。水分補給については嗜好に合わせた物の提供をして摂取量を確保している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>院内資格である食支援マスターが中心となり1人1人に口腔ケアアセスメントを実施しており定期的にケアの仕方の確認をしている。また、口腔内のトラブルに関しては同法人の歯科衛生士と相談し必要に応じて歯科医に繋げている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗を極力防げるように各入居者様の排泄パターンを、ほのぼのシステムを活用し職員間で共有している。また、各個人の排泄パターンからトイレ誘導や声かけのタイミングを考えて援助している</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分補給や乳製品の摂取をはじめ適度な運動機会を確保できるように午前、午後で体操する機械を設け、運動量の少ない方には個別で運動機会を確保できるように支援している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>無理強いすることなく、ご本人のタイミングで入浴に誘うようにしている。概ね3日に1度の入浴機会を確保できるように援助を行っており、希望があれば同性の職員で対応するようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日課や体調に合わせて休息時間を確保できるように柔軟に支援している。夜間等に不安を訴える方がいる時は話しの傾聴を行う等の安心できるような支援を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬確認を正確に実施できるように1日分の服薬BOXとチェック表を作成して活用している。また、薬の調整をされている方には、確認すべきポイントについて主治医に確認を行い、様子観察した記録を元に連携を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事援助や趣味活動で、入居者様が得意な事を見つけ日課に取り入れている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度は毎月の外出や買い物を実施している。また外食も企画中である。日常的にはホーム外での花壇手入れや散歩等を実施している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはご家族様の了承のもと、入居者様の責任で現金を所持して頂いている。必要に応じて社会福祉協議会とも連携を行いながら支援できる体制をとっている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの手紙は本人に確認をして一緒に読んだり希望に沿って返信を返したり、大切に保管できるように支援している。また、昨年より11月23日(文の日)に家族あてに手紙を書いてもらい大変喜ばれている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の居間部分は季節を感じて頂けるように季節の飾り付けを行っている。玄関前のプランターは季節毎に花の植え替えを行っている。ご自分の好きな場所でくつろげるように支援している また食事席や事務所前にも季節に合わせた切り花等を飾り季節感を味わってもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関部分は朝日が差し込むので、入居者が気の合う方と気持ち良く過ごせるようにソファを配置している。決して無理強いする事のないように思い思いの場所で過ごせるように支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご家族と相談を行い、居室内は好きなように使用して頂き安心できる環境を作る為、写真や使い慣れた物品を持参して頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの表示や居室の表札等、視覚で分かり易いように工夫している。また安全に生活を送れるように廊下にも休憩できる椅子を配置している		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームラ・メール大野

作成日 令和5年12月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	入居者のベッド環境が拘束に勘違いされる恐れがある。	ベッド環境を拘束に勘違いされない環境に整える。	Pバー使用者には足元柵は使用しない。 どうしても足元柵を使用する場合はPバーを別の物に変更する。	2024.3末まで
2	40	食事のバランスが悪い。(蛋白質や糖質不足)	食事メニュー改善。	併設病院の管理栄養士と共同で入居者個々に合ったメニューに改善する。	2024.3末まで
3	35	地域と防災訓練を実施していない。	地域との共同防災訓練。	地域でもしもの時の防災訓練を年に1回実施する。	2025.3末まで
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。